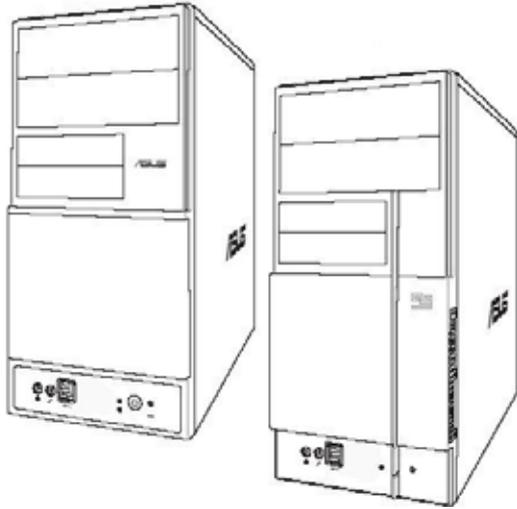


ASUS[®]

V-Series M2V890

ASUS PC (デスクトップベアボーン)

セットアップマニュアル



J2747

初版第 1 冊
2007年 8月

Copyright © 2007 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS) の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、保証やサービスを受けることができません。

- (1) ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2) 製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的にのみ提供するものです。また、予告なしに内容は変更されることがあり、この変更についてASUSはいかなる責任も負いません。本書およびハードウェア、ソフトウェアに関する不正確な内容について、ASUSは責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

ご注意	vi
安全上のご注意	vii
このマニュアルについて	viii
パッケージの内容	x

Chapter 1: システムの概要

1.1 ようこそ	1-2
1.2 フロントパネル(外部)	1-2
1.3 リアパネル	1-4
1.4 内部コンポーネント	1-7

Chapter 2: 基本取り付け

2.1 準備	2-2
2.2 始める前に	2-2
2.3 サイドカバーとフロントパネルを取り外す	2-3
2.4 CPU	2-4
2.4.1 概要	2-4
2.4.2 CPU を取り付ける	2-4
2.4.3 ヒートシンクとファンを取り付ける	2-6
2.5 メモリを取り付ける	2-8
2.5.1 メモリ構成	2-8
2.5.2 メモリを取り付ける	2-10
2.5.3 メモリを取り外す	2-10
2.6 拡張スロット	2-11
2.6.1 拡張カードを取り付ける	2-11
2.6.2 拡張カードを設定する	2-11
2.6.3 PCI Express x 1 スロット	2-13
2.6.4 PCI スロット	2-13
2.6.5 PCI Express x 16 スロット	2-13
2.7 光学ドライブを取り付ける	2-14
2.8 ハードディスクドライブを取り付ける	2-15
2.9 フロッピーディスクドライブを取り付ける	2-18
2.10 ベイカバーを取り外し、 フロントパネルとサイドカバーを取り付ける	2-19

もくじ

Chapter 3: 起動

3.1	OSをインストールする.....	3-2
3.2	電源をオンにする.....	3-2
3.3	サポートCD情報.....	3-3
3.3.1	サポートCDを実行する.....	3-3
3.3.2	ドライバメニュー.....	3-4
3.3.3	ユーティリティメニュー.....	3-5
3.3.4	Make Diskメニュー.....	3-6
3.3.5	コンタクトインフォメーション.....	3-7

Chapter 4: マザーボード情報

4.1	マザーボードの概要.....	4-2
4.2	マザーボードのレイアウト.....	4-2
4.3	ジャンパ.....	4-3
4.4	コネクタ.....	4-4

Chapter 5: BIOS セットアップ

5.1	BIOS管理更新.....	5-2
5.1.1	ブートフロッピーディスクを作成する.....	5-2
5.1.2	ASUS EZ Flash.....	5-3
5.1.3	AFUDOS.....	5-4
5.1.4	ASUS Update.....	5-6
5.2	BIOS設定プログラム.....	5-9
5.2.1	BIOSメニュー画面.....	5-10
5.2.2	メニューバー.....	5-10
5.2.3	ナビゲーションキー.....	5-10
5.2.4	メニュー.....	5-11
5.2.5	サブメニュー.....	5-11
5.2.6	構成フィールド.....	5-11
5.2.7	ポップアップウィンドウ.....	5-11
5.2.8	スクロールバー.....	5-13
5.2.9	ヘルプ.....	5-11

もくじ

5.3	メインメニュー	5-12
5.3.1	System Time	5-12
5.3.2	System Date	5-12
5.3.3	Legacy Diskette A	5-12
5.3.4	Primary, Secondary IDE Master/Slave	5-13
5.3.5	システム情報	5-14
5.4	拡張メニュー	5-15
5.4.1	USB 設定	5-15
5.4.2	CPU の設定	5-16
5.4.3	チップセット	5-17
5.4.4	SouthBridge VIA VT8237A Configuration	5-21
5.4.5	PCI PnP	5-22
5.5	電源メニュー	5-24
5.5.1	Suspend Mode	5-24
5.5.2	ACPI 2.0 Support	5-24
5.5.3	ACPI APIC Support	5-24
5.5.4	APM の設定	5-24
5.5.5	ハードウェアモニタ	5-26
5.6	ブートメニュー	5-27
5.6.1	ブートデバイスの優先順位	5-27
5.6.2	起動設定	5-28
5.6.3	セキュリティ	5-29
5.7	終了メニュー	5-31

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.



WARNING! The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 電源ユニットの修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。何らかの損傷が見つかった場合は、販売代理店にご連絡ください。
- マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。本製品は安定した場所に設置してください。
- 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

リチウムイオンバッテリー

CAUTION: Danger of explosion if battery is incorrectly replaced. Replace only with the same or equivalent type recommended by the manufacturer. Dispose of used batteries according to the manufacturer's instructions.

VORSICHT: Explosionsgefahr bei unsachgemäßen Austausch der Batterie. Ersatz nur durch denselben oder einem vom Hersteller empfohlenem ähnlichen Typ. Entsorgung gebrauchter Batterien nach Angaben des Herstellers.

レーザー製品

クラス 1 レーザー製品

このマニュアルについて

対象読者

本書は、本製品に関する情報全般と取り付け方法を説明しています。なお、本書は上級ユーザーを対象にしています。

マニュアルの概要

1. Chapter 1: システムの概要

本製品の概要。フロントパネルとリアパネル、および内部コンポーネントなどの、システムの各機能を紹介。

2. Chapter 2: 基本取り付け

システムのコンポーネントの取り付けの方法について。

3. Chapter 3: 起動

システムの電源をオンにする方法、サポートCDからドライバやユーティリティをインストールする方法について。

4. Chapter 4: マザーボード情報

付属のマザーボードについての情報と、マザーボードのレイアウト、ジャンパ設定、コネクタの位置などの説明。

5. Chapter 5: BIOS のセットアップ

BIOSセットアップメニューでのシステム設定、変更方法、BIOSパラメータの説明。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告:本製品を取り扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意:本製品を取り扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要:本製品を取り扱う上で、必要な指示です。



注記:本製品を取り扱う上でのヒントと追加情報です。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS Webサイト (<http://www.asus.co.jp/>)

各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

パッケージの内容

ASUS V-Series M2V890 に以下のものが揃っていることを確認してください。



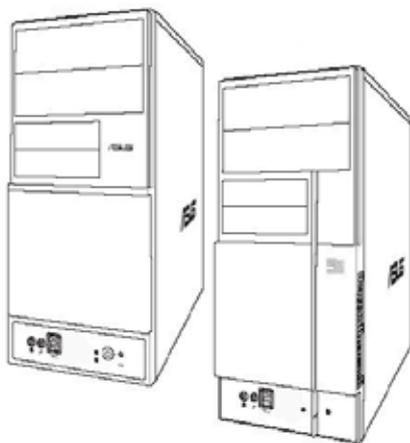
付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

パッケージの内容

- | |
|-----------------------------------|
| 1. ASUS V-Series M2V890 ペアボーンシステム |
| • ASUS マザーボード |
| • 250 W PFC 電源ユニット |
| • ASUS ケース |
| 2. ケーブル |
| • AC 電源ケーブル |
| 3. サポート CD |
| 4. ユーザーマニュアル |

Chapter 1

本製品の概要。フロントパネルとリアパネル、および内部コンポーネントなどの、システムの各機能を紹介



システムの概要

1.1 ようこそ

ASUS V-Series M2V890をお買い上げいただき、ありがとうございます。

ASUS V-Series M2V890 はパワフルで扱いやすいオールインワンベアボーンシステムです。

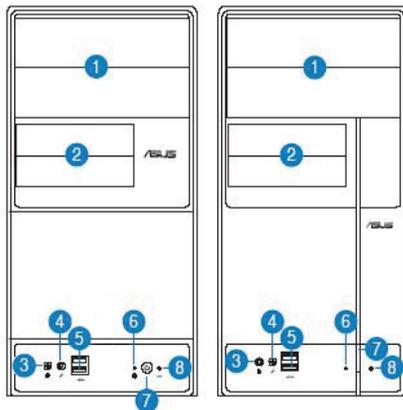
本製品は、スタイリッシュなミニタワーケースに AMD Athlon™ 64 X2/AMD Athlon™ 64/AMD Sempron™ プロセッサをサポートする 940ピン AM2 ソケット搭載のマザーボードを装備しています。

DDR2-667/533 メモリに対応し、最大2 GB のシステムメモリを取り付けることができます。VIA 統合型グラフィックス、Serial ATA、USB 2.0、8チャンネルオーディオ機能の採用で、多様化するユーザーのニーズに応えます。

1.2 フロントパネル(外部)

フロントパネルには光学ドライブベイ、フロッピーディスクドライブスロット、電源ボタン、I/O ポート等が組み込まれています。

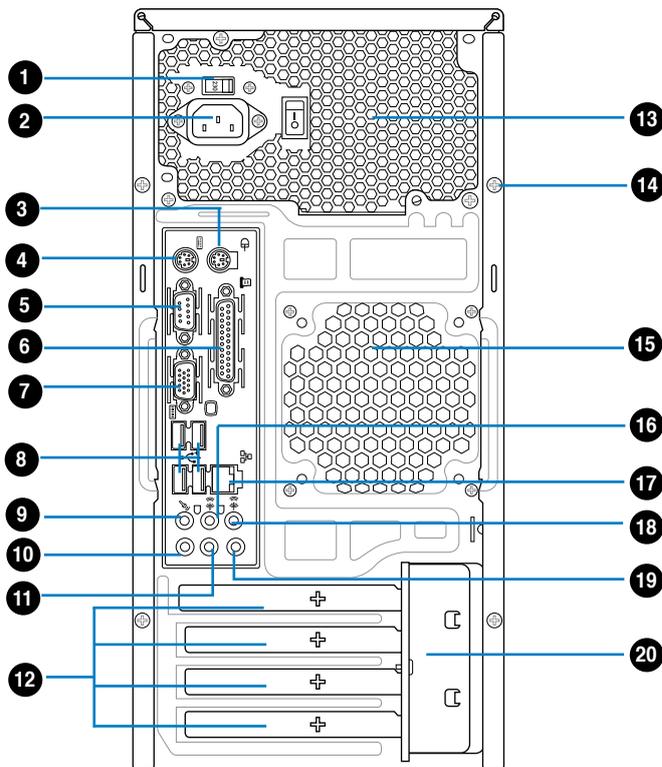
1. 5.25 インチドライブベイカバー
2. 3.5 インチドライブベイカバー
3. ヘッドセットポート
4. マイクポート
5. USB 2.0 ポート
6. HDD LED
7. 電源ボタン
8. リセットボタン



1. **5.25 インチドライブベイカバー:**IDE 光学ドライブ用です。
2. **3.5 インチドライブベイカバー:**3.5 インチフロッピーディスクドライブ/ハードディスクドライブ用です。
3. **ヘッドセットポート:**このラインインポート(グリーン)はステレオミニプラグ搭載のヘッドセットを接続します。
4. **マイクポート:**このマイクポート(ピンク)は、マイクを接続します。
5. **USB 2.0 ポート:**マウス、プリンタ、スキャナー、カメラ、PDA等の USB 2.0 対応デバイスを接続します。
6. **HDD LED:**ハードディスクドライブとのデータ送受信中に点灯します。
7. **電源ボタン:**システムをオンにします。
8. **リセットボタン:**電源をオフにせずに、システムを再起動します。

1.3 リアパネル

リアパネルには、各デバイスの接続に便利な電源コネクタ、各 I/O ポートが組み込まれています。



1. **電圧セレクター**:システム入力電圧を選択します。お住まいのエリアに応じて選択してください。詳細はページ 1-6 「**電圧セレクター**」をご参照ください。
2. **電源コネクタ**:電源ケーブル/プラグ用です。
3. **PS/2 マウスポート**:PS/2 マウス用です。
4. **PS/2 キーボードポート**:PS/2 キーボード用です。

5. **COM ポート**:VGA モニタやその他の VGA対応デバイス用です。
6. **パラレルポート**:パラレルプリンター、スキャナー等のデバイスを接続します。
7. **VGA ポート**:VGA モニタや他の VGA対応デバイスを接続します。
8. **USB 2.0 ポート**:USB 2.0 デバイスを接続します。
9. **サイドスピーカー出力ポート(グレー)**: 8 チャンネルサイドスピーカーを接続します。
10. **マイクポート(ピンク)**:マイクを接続します。
11. **ライン出力ポート(ライム)**:ヘッドセットまたはスピーカーを接続します。4チャンネルと6チャンネル構成では、フロントスピーカー出力になります。
12. **拡張スロットメタルブラケット**:拡張カードを取り付ける際はこのブラケットを取り外します。
13. **電源ファン通気孔**:電源ファン用です。
14. **カバー用ネジ**:拡張カードを取り付ける際は、このカバー用ネジを取り外します。
15. **ケースファン通気孔**:システムケースファン用です。
16. **リアスピーカー出力ポート(ブラック)**:4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルオーディオ構成でリアスピーカーを接続します。
17. **LAN (RJ-45) ポート**:Realtek® Gigabit LAN コントローラにより、ネットワークハブを通じてローカルエリアネットワーク (LAN) でGigabit 接続が利用できます。
18. **センタ/サブウーファポート(オレンジ)**:センタ/サブウーファポートスピーカーを接続します。
19. **ライン入力ポート:(ライトブルー)**:テープ、CD、DVDプレーヤー等のオーディオソースを接続します。
20. **メタルブラケットロック**:拡張カードを取り付ける際は、このメタルブラケットロックを取り外します。



オーディオポート2、4、6、8チャンネル構成については、下のオーディオ構成表をご参照ください。

オーディオ構成表

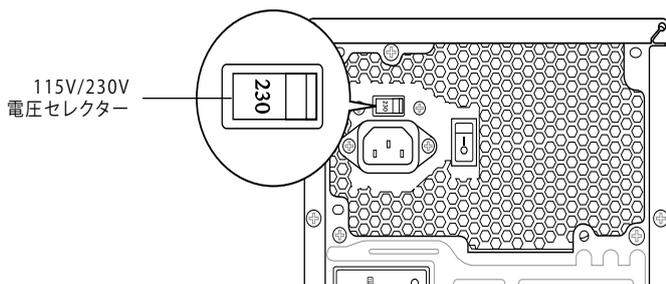
ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	ライン入力
ライム	ライン出力	フロントスピーカー 出力	フロントスピーカー 出力	フロントスピーカー 出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
オレンジ	-	-	センタ/サブウーファ	センタ/サブウーファ
ブラック	-	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
グレイ	-	-	-	サイドスピーカー出力

電圧セクター

システム電源の電源コネクタの側には、115 V/230 V 電圧セクタースイッチが付いています。お住まいのエリアの電圧に応じて、適切な電圧を選択してください。

供給電圧が 100-127 V の場合、スイッチを 115 V にします。

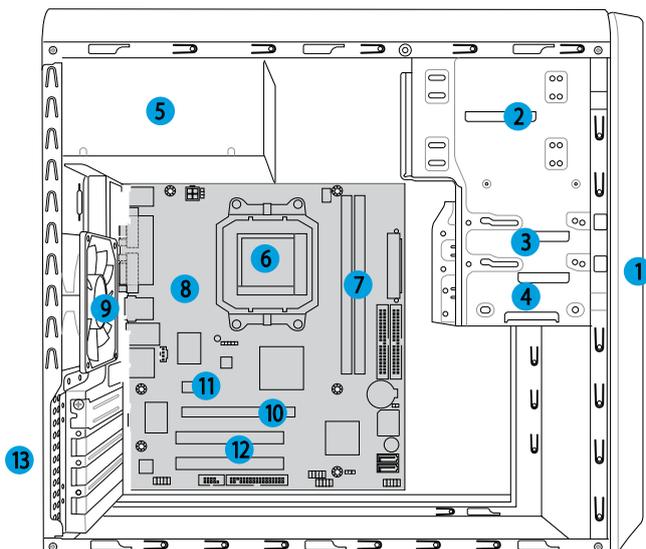
供給電圧が 200-240 V の場合、スイッチを 230 V にします。



不適切な電圧を選択した場合、システムの故障の原因となります。ご注意ください!

1.4 内部コンポーネント

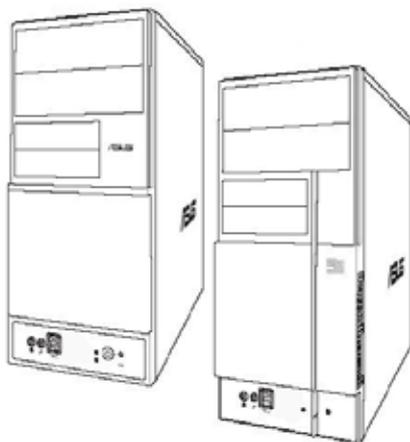
下の図は、トップカバーと電源ユニットを取り外した状態のシステムの内部図です。各コンポーネントには番号がふってあります。追加のシステムコンポーネントについては、Chapter 2 をご参照ください。



- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. フロントパネルカバー | 8. ASUS マザーボード |
| 2. 5.25インチ光学ドライブベイ | 9. ケースファン |
| 3. ハードディスクドライブベイ | 10. PCI Express x16 スロット |
| 4. フロッピーディスクドライブベイ | 11. PCI Express x1 スロット |
| 5. 電源ユニット | 12. PCI スロット |
| 6. CPU ソケット | 13. メタルブラケットロック |
| 7. メモリスロット | |

Chapter 2

システムのコンポーネントを取り付ける方法について



基本取り付け

2.1 準備

取り付ける前に、全てのコンポーネントが揃っているか確認してください。

取り付ける基本コンポーネント

1. CPU
2. DDR2 メモリ
3. 拡張カード
4. ハードディスクドライブ
5. 光学ドライブ
6. フロッピーディスクドライブ

工具

Phillips スクリュードライバ

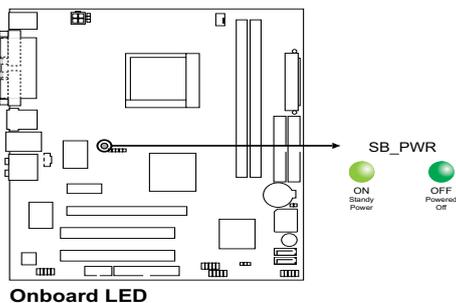
2.2 始める前に

コンポーネントをシステムに取り付ける前に次の事項に留意してください。



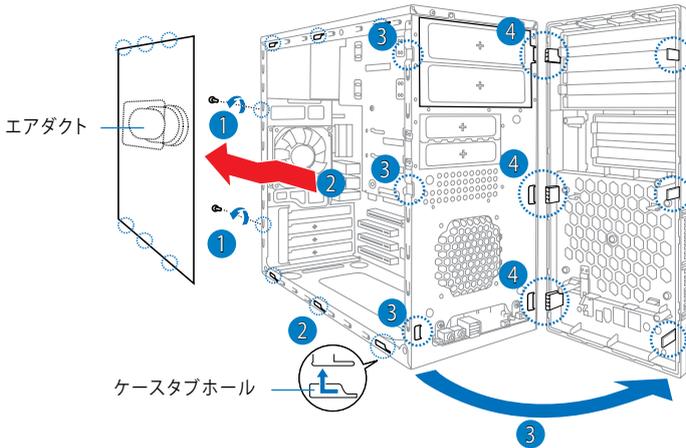
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置か、コンポーネントに付属する袋に入れてください。

マザーボードには、スタンバイ LED が搭載されており、電力が供給されている間は緑のLEDが点灯します。マザーボードに各コンポーネントの取り付け・取り外しを行う際は、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



2.3 サイドカバーとフロントパネルを取り外す

1. リアパネル上のカバー用ネジを外します。
2. サイドカバーをリアパネルの方向へ引き、フックをケースタブホールから外します。
3. フロントパネルフックの位置を確認し、上に上げてケースから外します。
4. 右側のヒンジ状のタブが見えるまでフロントパネルを右に回転させます。
5. フロントパネルを外します。



2.4 CPU

2.4.1 概要

本マザーボードには、AMD Athlon™ 64 X2/AMD Athlon™ 64/AMD Sempron™ プロセッサに対応の 940ピン AM2 ソケットが搭載されています。

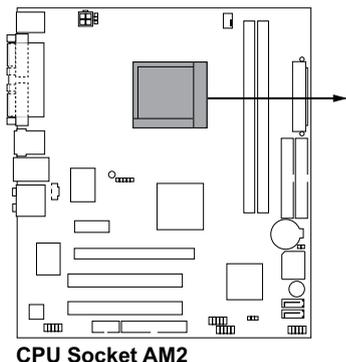


CPU が AM2 ソケットに対応していることを確認してください。また、CPU を取り付けることができるのは一方のみです。CPU をソケットを無理に押し込まないでください。ソケット上のコネクタとCPUの破損の原因となります。

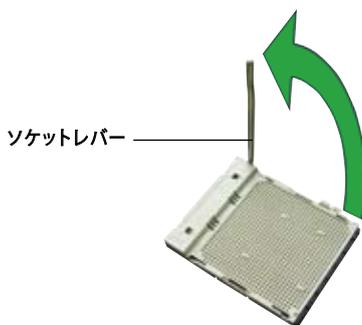
2.4.2 CPUを取り付ける

手順

1. CPUソケットの位置を確認します。



2. ソケットの脇にあるレバーを押し、90°~100°持ち上げてロックを解除します。



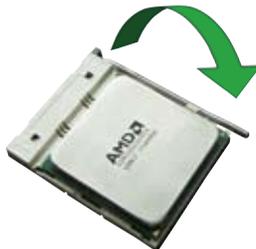
ソケットレバーを 90°~100° 持ち上げないと、CPU を取り付けることができません。

3. 金色の三角形がマークされているコーナーと小さな三角形がマークされているソケットの位置が合うよう、CPU をソケットの上に置きます。
4. 所定の位置にはまるまで、CPU を慎重にソケットに挿入します。

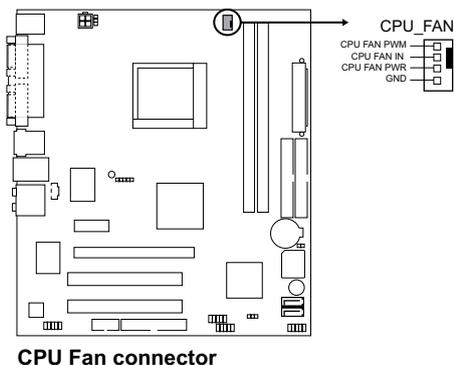


CPU を取り付けることができるのは一方のみです。CPU をソケットを無理に押し込まないでください。ソケット上のコネクタとCPUの破損の原因となります。

5. CPU を所定の位置に挿入したら、ソケットレバーを押し下げ、CPU をロックします。ロックされるとカチッという音がします。
6. ヒートシンクパッケージに付属の説明書等の指示に従って、CPU ヒートシンクとファンを取り付けます。



7. CPU ファンケーブルをマザーボード上のCPU_FAN コネクタに接続します。



CPU ファンコネクタを必ず接続してください。ハードウェアモニタエラーが発生することがあります。

2.4.3 ヒートシンクとファンを取り付ける

AMD Athlon™ 64 X2/AMD Athlon™ 64/AMD Sempron™ プロセッサは、専用のヒートシンクとファンを組み合わせることで、効率的な冷却を行いCPU パフォーマンスを引き出します。



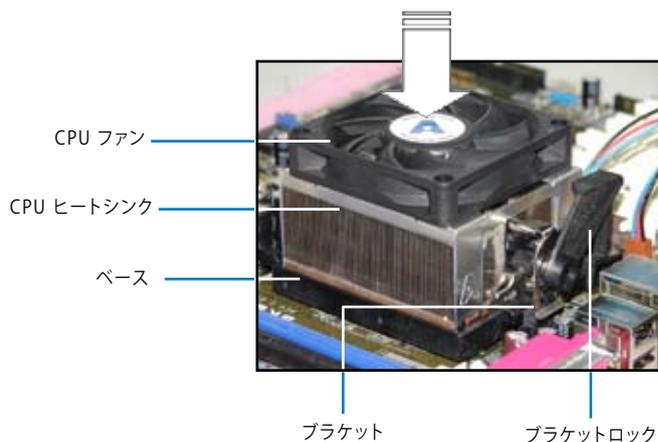
AMD 公認のヒートシンクとファンのみをご使用ください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. ヒートシンクをCPUの上に置き、ヒートシンクがベースにフィットすることを確認してください。

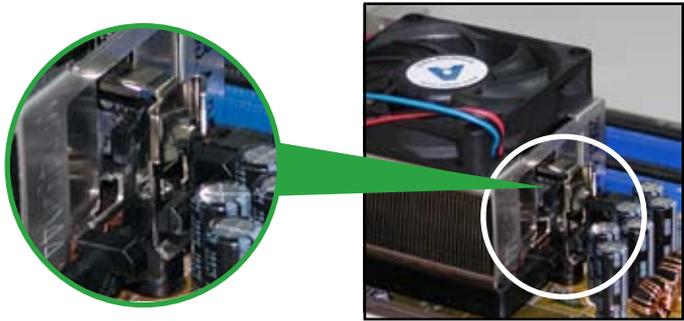


- ベースは購入時に既にマザーボード上に取り付けられています。
- CPU やその他のコンポーネントを取り外す際に、ベースを取り外す必要はありません。
- CPUヒートシンクとファンを別々にお買い求めになった場合は、ヒートシンクとファンを取り付ける前に、サーマルグリスをヒートシンクまたはCPUに塗布してください。



ボックス入りのCPU ヒートシンクとファンには、取り扱い説明書等が添付されています。本マニュアルの記載内容と相違点がある場合は、ボックスに添付の説明書等の記載内容に従ってください。

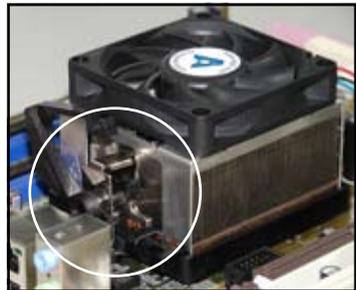
2. ブラケットのエッジの一方をベースに取り付けます。



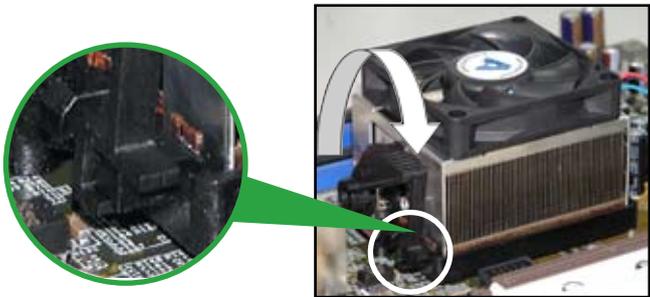
3. ブラケットのエッジのもう一方を (ブラケットロックの近く) ベースに合わせます。ブラケットが所定の位置に収まると、カチッという音がします。



ファンとヒートシンクがベースにフィットしていることを確認してください。フィットしていないと、ブラケットは所定の位置に収まりません。



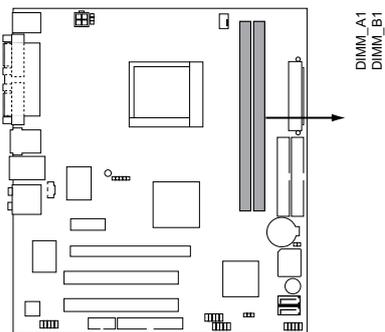
4. ブラケットロックを押し下げ、ヒートシンクとファンをベースに固定します。



2.5 メモリを取り付ける

マザーボードには、DDR2 メモリスロットが2基実装されています。

次の図は、スロットの位置を示しています。



240-pin DDR2 DIMMSlots

2.5.1 メモリ構成

本マザーボードには DDR2 メモリスロットが2基搭載されており、256 MB、512 MB、1 GB unbuffered ECC/non-ECC DDR2 メモリを取り付けることができます。



メモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。サポートするメモリについては、ASUSのWebサイト(<http://www.asus.co.jp/>)をご参照ください。

メモリの QVL (推奨ベンダーリスト)

モデル	サイド	チップNo.	サイズ	パーツNo.
Kingston	SS	E5116AB-5C-E	256MB	KVR533D2N4/256
Kingston	SS	E5116AF-5C-E	256MB	KVR533D2N4/256
Kingston	DS	HY5PS56821	512MB	KVR533D2N4/512
Kingston	DS	D6408TE7BL-37	1G	KVR533D2N4/1G
Kingston	SS	E2508AB-6E-E	256MB	KVR667D2N5/256
Kingston	SS	D6408TE8WL-27	512MB	KVR667D2N5/512
Kingston	SS	E5108AE-6E-E	512MB	KVR667D2E5/512
Samsung	SS	K4T51083QB-GCD5	512MB	M378T6553BG0-CD5
Samsung	SS	K4T51083QC	512MB	KR M378T6553CZ0-CE6
Samsung	DS	K4T56083QF-ZCE6	512MB	KR M378T6453FZ0-CE6
Samsung	SS	K4T51083QC-ZCE6	1G	KR M378T2953CZ0-CE6
Infineon	SS	HYB18T512160AF-3.7AFSS31270	256MB	HYS64T32000HU-3.7-A
Infineon	SS	HYB18T512800AC37SSS11511	512MB	HYS64T64000GU-3.7-A
Infineon	SS	HYB18T512800AF37SSS12079	512MB	HYS64T64000HU-3.7-A
Infineon	SS	HYB18T512800AF37FSS29334	512MB	HYS64T64000HU-3.7-A
Infineon	SS	HYB18T5128000AF-3SSSS27416	512MB	HYS64T32000HU-3S-A
Infineon	SS	HYB18T512800AF3SFSS05346	512MB	HYS64T64000HU-3S-A
Infineon	DS	HYB18T512800AF3SFSS28104	1G	HYS64T128020HU-3S-A
Micron	DS	D9BOM	512MB	MT 16HTF6464AG-53EB2
Micron	DS	D9CRZ	1G	MT 16HTF12864AY-53EA1
Corsair	DS	MIII0052532M8CEC	512MB	VSS12MB533D2
HY	SS	HY5PS12821AFP-Y4	512MB	HYMP564U64AP8-Y4 AA
Kingmax	SS	KKEA88B4IAK-37	512MB	KLBC28F-A8KB4
Kingmax	SS	E5116AB-5C-E	256MB	KLBB68F-36EP4
Kingmax	SS	E5108AE-6E-E	512MB	KLCC28F-ABEB5
VDATA	SS	VD29608A8A-3EC20615	512MB	M2GVD5G3H31A411C52
VDATA	DS	VD29608A8A-3EC20620	1G	M2GVD5G3I41C411C52

サイド : SS - シングルサイド DS - ダブルサイド



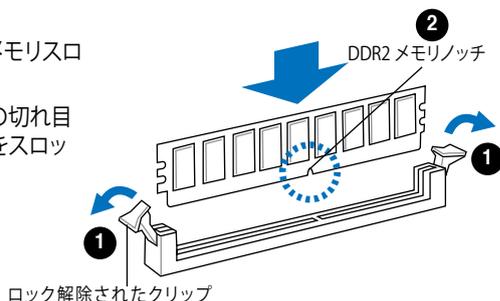
最新の DDR2-667/533 MHz QVLは、ASUSのWebサイト(<http://www.asus.co.jp/>)
をご参照ください。

2.5.2 メモリを取り付ける



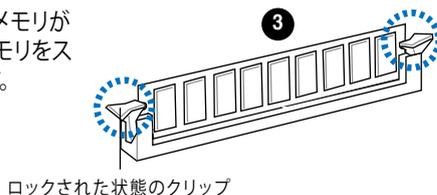
メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。



DDR 2 メモリは取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。

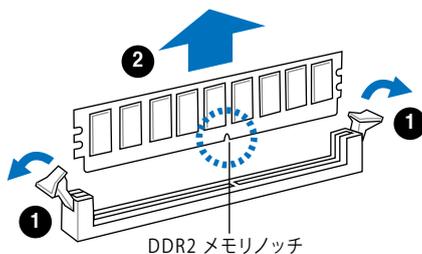
3. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。



2.5.3 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っ張り上げます。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。

2. スロットからメモリを取り外します。

2.6 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードの追加や取り外しを行う前は、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷や、マザーボードコンポーネントの損傷の原因となります。

2.6.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます（マザーボードをケースに取り付けている場合）。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.6.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 5 をご参照ください。
2. IRQ (割り込み要求) 番号をカードに合わせます。次のページの表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバが IRQ の共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなる場合があります。詳細は次項の表をご参照ください。

標準の割り込み割り当て

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマー
1	2	キーボードコントローラ
2	-	IRQ#9 にリダイレクト
3	11	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
4	12	通信ポート(COM1)*
5	13	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7	15	プリンタポート (LPT1)*
8	3	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	4	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
10	5	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
11	6	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ*
12	7	PS/2 互換マウスポート*
13	8	数値データプロセッサ
14	9	プライマリ IDE チャンネル
15	10	セカンダリ IDE チャンネル

*上記のIRQはPCIデバイスで使用されています。

本マザーボード用のIRQ割り当て

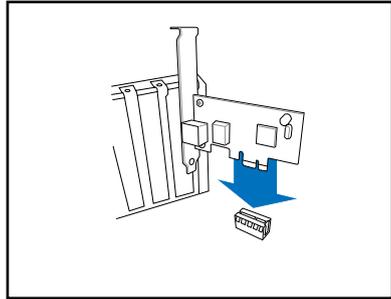
	A	B	C	D
PCI スロット 1	使用	—	—	—
PCI スロット 2	—	使用	—	—



PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバがIRQの共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する2つのPCIグループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなる場合があります。

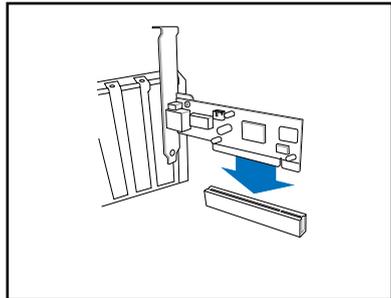
2.6.3 PCI Express x1 スロット

本マザーボードは PCI Express x1 ネットワークカード、SCSI カードの PCI Express 規格準拠のカードをサポートしています。図はネットワークカードを取り付けたものです。



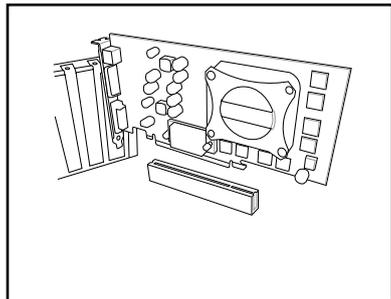
2.6.4 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。図は LAN カードを取り付けたものです。



2.6.5 PCI Express x16 スロット

本マザーボードは PCI Express 規格準拠の PCI Express x16 ビデオカードを取り付けることができます。図はビデオカードを取り付けたものです。

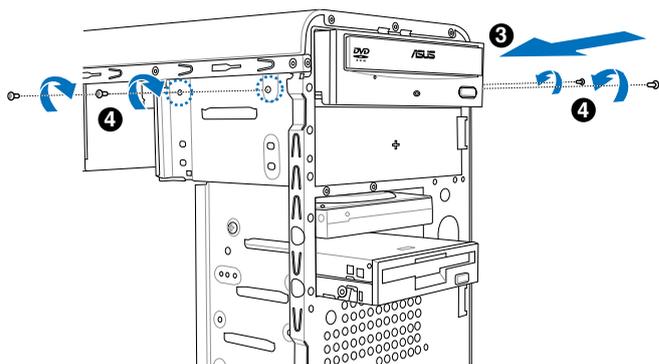


2.7 光学ドライブを取り付ける

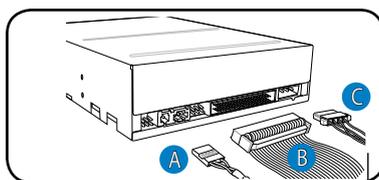
光学ドライブを取り付ける場合は、本項以降の記載に従ってください。

手順

1. ケースを図のように置きます。
2. ドライブスロットメタルプレートカバーを取り外します。
3. 光学ドライブを5.25 インチドライブベイに挿入し、光学ドライブのネジ穴とベイのネジ穴の位置を合わせます。
4. 光学ドライブを2本のネジでベイに固定します。



5. オーディオプラグ(A)、IDEプラグ(B)、電源プラグ(C)をドライブ後部にあるコネクタに接続します。
6. IDE リボンケーブルのもう一方をマザーボードのセカンダリIDE コネクタ (SEC_IDEと表示) に接続します。コネクタの位置はページ 4-6 をご参照ください。



IDE リボンケーブル

電源ケーブル

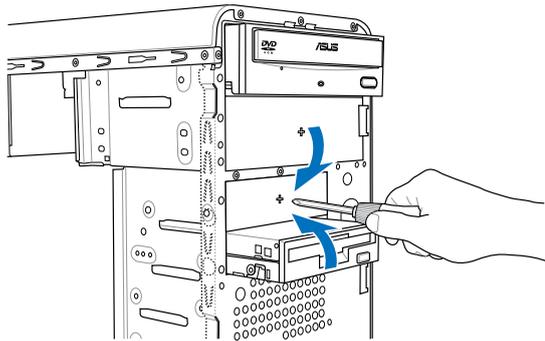
7. ダミードライブスロットカバーをフロントパネルから取り外します。
8. フロントパネルを元に戻します。詳細はページ 2-19 セクション「**2.10 ベイカバーを取り外し、フロントパネルとサイドカバーを取り付ける**」をご参照ください。

2.8 ハードディスクドライブを取り付ける

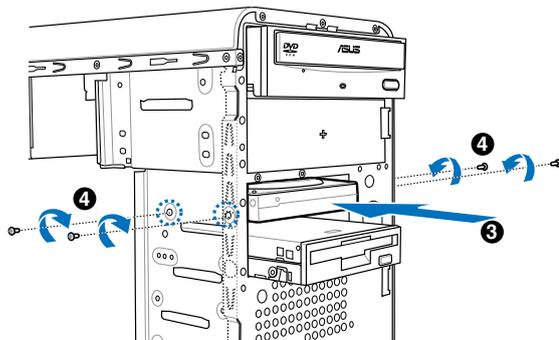
モデルによっては、3.5 インチ Serial ATA または IDE ハードディスクドライブ 1 台が既に搭載されています。このセクションは、Serial ATA または IDE ハードディスクドライブを追加する場合にご参照ください。

手順

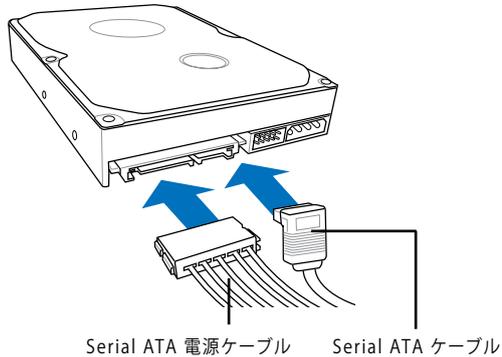
1. ケースを図のように置きます。
2. ドライバで HDD ドライブスロットメタルプレートカバーを取り外します。



3. HDD のレーベルが上になるようにし、ドライブを 3.5 インチベイに挿入し、ドライブベイのネジ穴とドライブのネジ穴の位置を合わせます。



4. 2本のネジでドライブをベイに固定します。



5. Serial ATA ケーブルのエン드의一方をドライブ後部の SATA コネクタに接続します。次に、もう一方のエン드를マザーボードの Serial ATA コネクタに接続します。Serial ATA コネクタの位置についてはページ 4-5 をご参照ください。
6. 15ピン Serial ATA 電源プラグで電源ユニットとドライブ後部の 15ピン電源コネクタを接続します。

-または-

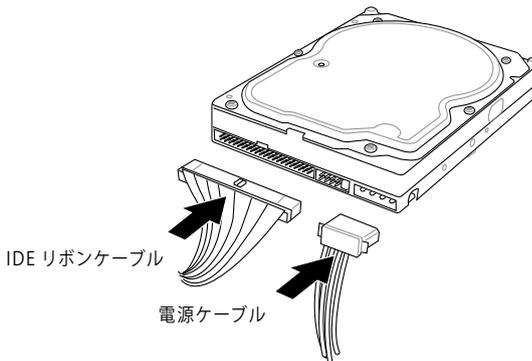
4ピン(メス)電源プラグで電源ユニットとドライブ後部の 4ピン(オス)電源コネクタを接続します。



お使いの Serial ATA HDD の後部に、4ピンコネクタと 15ピンコネクタ両方が付いている場合は、15ピン SATA 電源アダプタプラグまたはレガシー 4ピン電源コネクタの「**いずれか**」をご使用ください。両方使用した場合、コンポーネントの故障またはシステムが不安定になる原因となります。

IDE ハードディスクドライブを取り付ける

1. 前のセクションの手順 1~4 に従ってください。
2. IDE リボンケーブルのブルーのインターフェースをマザーボードのプライマリ IDE コネクタ (ブルーのコネクタ、PRI_IDEと表示) に接続します。コネクタの位置はページ 4-6 をご参照ください。



- ハードディスクドライブを 1 台だけ取り付ける場合は、IDE ケーブルと電源プラグを接続する前に、ハードディスクドライブをマスターデバイスに設定します。マスターデバイスに設定する方法は、ハードディスクドライブの説明書等をご参照ください。
- IDE ハードディスクドライブを 2 台取り付ける場合は、2 台目をスレーブに設定します。

3. IDE リボンケーブルのグレイのインターフェースをドライブの IDE コネクタに接続します。
4. IDE ハードディスクドライブを 2 台接続する場合は、IDE リボンケーブルのブラックのインターフェースをセカンド (スレーブ) IDE ハードディスクドライブの IDE コネクタに接続します。
5. 4ピン電源プラグで電源ユニットとドライブ後部にある電源コネクタを接続します。

2.9 フロッピーディスクドライブを取り付ける

本ベアボーンシステムには、3.25 インチドライブベイが搭載されており、フロッピーディスクドライブを 1 台取り付けることができます。

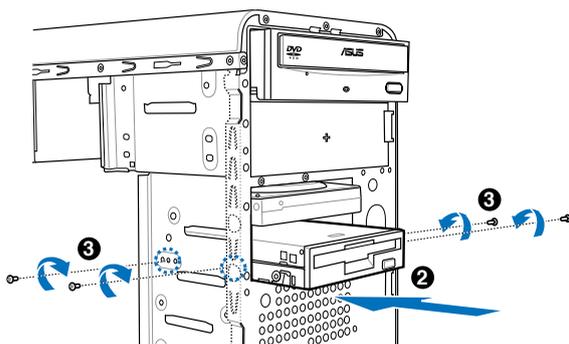
手順

1. フロントパネルカバーを取り外します。

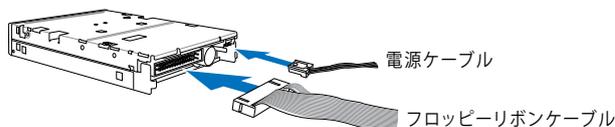


フロントパネルカバーの取り外し方については、ページ 2-3 のセクション「**2.3 サイドカバーとフロントパネルを取り外す**」をご参照ください。

2. フロッピーディスクドライブをフロッピードライブベイに挿入し、ドライブのネジ穴とベイのネジ穴の位置を合わせます。
3. 2本のネジでベイにフロッピーディスクドライブを固定します。



4. フロッピーディスクドライブの信号ケーブルをドライブ後部にあるコネクタに接続します。

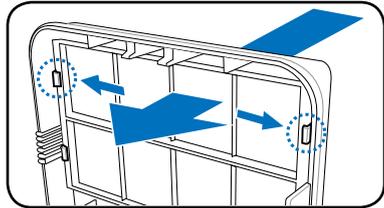


5. 信号ケーブルのもう一方をマザーボードのフロッピーディスクドライブコネクタに接続します。このコネクタについての詳細はページ 4-4 をご参照ください。
6. 4ピン電源ケーブルで電源ユニットとフロッピーディスクドライブ電源コネクタを接続します。

2.10 ベイカバーを取り外し、 フロントパネルとサイドカバーを取り付ける

光学ドライブまたはフロッピーディスクドライブの取り付けが終了したら、ケースに取り付ける前にフロントパネルのベイカバーを取り外す必要があります。

1. ベイカバーロックの位置を確認します。
2. ロックを外側に押し、ベイカバーを外します。
3. ベイカバーを内側に押し、脇に置きます。
4. 3.5インチドライブベイカバーを取り外す際も、手順は同じです。

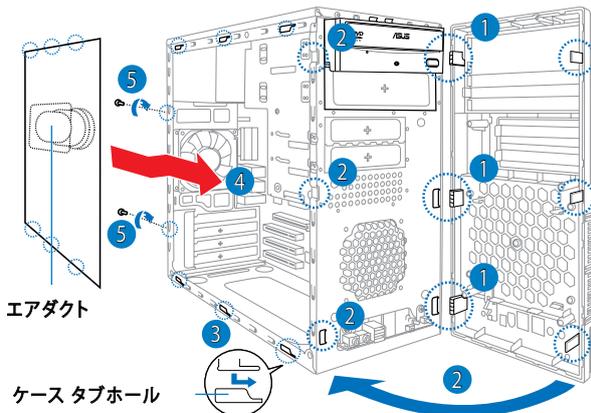


フロントパネルとサイドカバーを取り付ける

1. フロントパネルのヒンジ状のタブをケース右側の穴に挿入します。
2. フロントパネルを左方向に回転させます。
3. サイドカバーフックをケースのタブホールにはめます。
4. 所定の位置に収まるまでサイドカバーをフロントパネルの方向に押しします。
5. カバーを2本のネジで固定します。

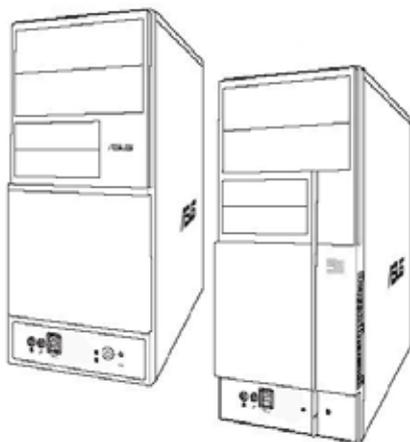


エアダクトがCPUファンの妨げになる場合は、エアダクトを調節してください。



Chapter 3

システムの電源をオンにする方法、サポートCDからドライバやユーティリティをインストールする方法について



起動

3.1 OSをインストールする

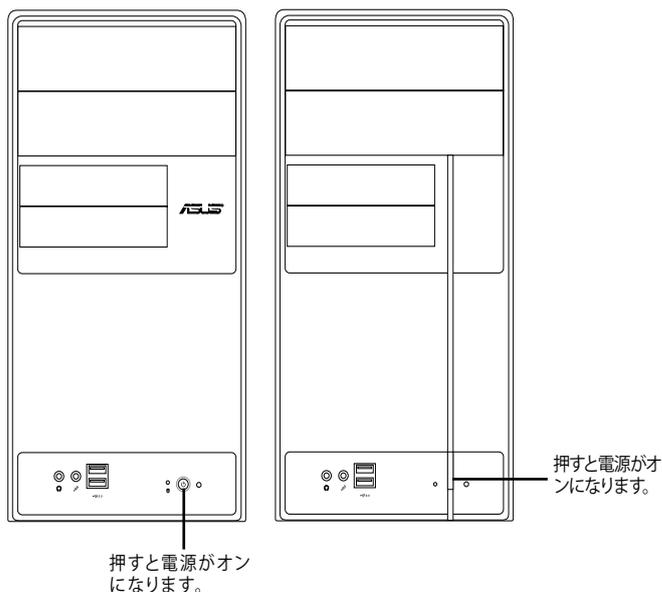
本ベアボーンシステムは、Windows® 2000/XP/Vista をサポートしています。ハードウェアの機能を最大に活用するために、OS を定期的にアップデートしてください。



- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® 2000 は Service Pack 4 を適用済みのものを、Windows® XP は Service Pack 1 以降を適用済みのものをご使用ください。

3.2 電源をオンにする

システム電源ボタン(⏻)を押すと、OS が起動します。



3.3 サポート CD 情報

付属のサポート CD には、ソフトウェアや各種ユーティリティドライバが収録されています。



- 画面の表示内容及びドライバのオプションは、OS のバージョンにより異なる場合があります。
- サポートCDの内容は、将来予告なしに変更することがあります。更新版はASUS Webサイト (www.asus.co.jp) でお求めください。

3.3.1 サポートCDを実行する

サポートCDを光学ドライブに入れます。コンピュータでAutorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



その他の情報を表示

インストールする項目を選択



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCDのBINフォルダからASSETUP.EXEを探してください。ASSETUP.EXEをダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

3.3.2 ドライバメニュー

ドライバメニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



AMD Cool 'n' Quiet Driver

AMD Cool 'n' Quiet ドライバをインストールします。

VIA Chipset Driver Program

VIA チップセット用のドライバをインストールします。

VIA S3G Display Driver

VIA S3G ディスプレイドライバをインストールします。

Realtek Audio Driver

Realtek® オーディオドライバをインストールします。

Realtek RTL8100S LAN Driver

Realtek® RTL8100S LAN ドライバをインストールします。



画面の表示内容及びドライバのオプションは、OS のバージョンにより異なる場合があります。

3.3.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで使用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。



ASUS Cool 'n' Quiet Utility

ASUS Cool 'n' Quiet ユーティリティをインストールします。

ASUS Update

Windows®環境で BIOS のアップデートが行えます。このユーティリティを使用するにはインターネット接続が必要です。

ADOBE Acrobat Reader V7.0

PDF (Portable Document Format) ファイルの閲覧、プリントができるAdobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c

Microsoft DirectX® 9.0 c は、コンピュータのグラフィックスとサウンドを拡張するマルチメディアテクノロジーです。DirectX®はコンピュータのマルチメディア機能を向上させるので、TVや映画、ビデオキャプチャ、ゲームをよりお楽しみいただけます。



このアプリケーションは、Windows® XP Service Pack 2 に組み込まれています。Windows® XP Service Pack 2 をインストールしてある場合は、Microsoft® DirectX® 9.0c のインストールは不要です。

Anti-Virus utility

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。詳細はオンラインヘルプをご参照ください。

ASUS Screen Saver

ASUS Screen Saver をインストールします。



画面の表示内容及びドライバのオプションは、OS のバージョンにより異なる場合があります。

3.3.4 Make Disk メニュー

RAID ドライバディスクを作成します。

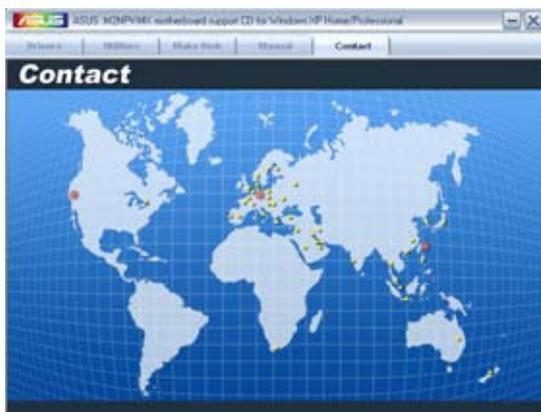


VIA VT8237 RAID Controller Driver

VIA® VT8237 RAID ドライバディスクを作成します。

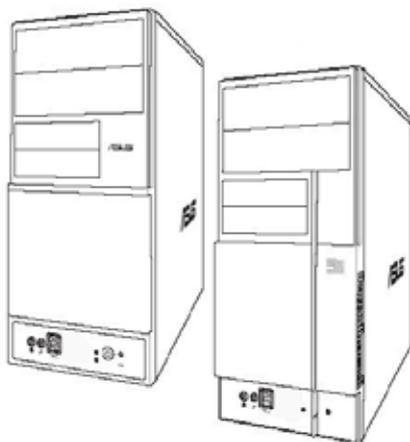
3.3.5 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーションが表示されます。



Chapter 4

付属のマザーボードについての情報と、マザーボードのレイアウト、ジャンパ設定、コネクタの位置などの説明

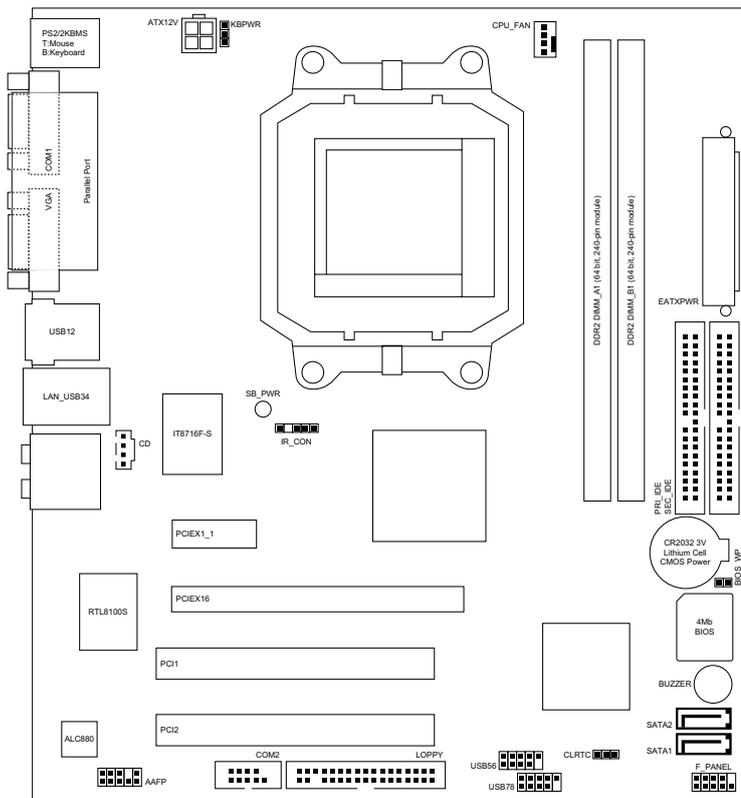


マザーボード情報

4.1 マザーボードの概要

本ベアボーンシステムには ASUS マザーボードが付属しています。ここでは技術的な情報やシステム構成について説明します。

4.2 マザーボードのレイアウト



4.3 ジャンパ

1. RTC RAMのクリア (CLRTC)

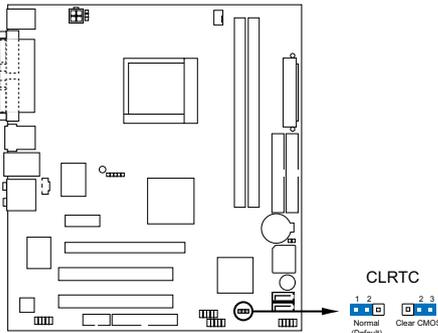
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック (RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの維持は、マザーボード上のボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. ジャンパキャップをピン 1-2 (初期設定) からピン 2-3 に移動させます。5〜10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。



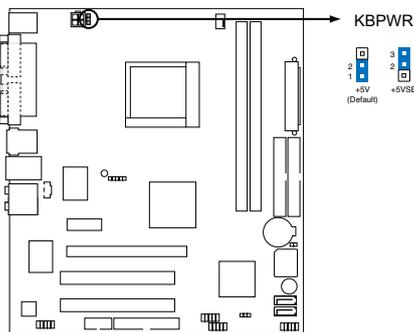
Clear RTC RAM



- オーバークロックによりシステムがハングアップした場合は、C.P.R. (CPU Parameter Recall) 機能をご利用いただけます。システムを停止して再起動すると、BIOSは自動的にパラメータ設定を初期設定値にリセットします。
- チップセットの性質上、C.P.R. 機能を有効にするにはAC電源はオフの状態にする必要があります。システムを再起動する前に、電源を一度オフにしてからオンにするか、電源コードを抜いてから再度接続してください。

2. キーボード電源 (3ピンKBPWR)

このジャンパはキーボードウェイクアップ機能の切り替え用のジャンパです。キーボードのキーを押してコンピュータをウェイクアップさせる場合は (初期設定はスペースバー)、このジャンパをピン 2-3 (+5VSB) にします。この機能には+5VSB リード線に最低 500 mA 供給可能な ATX 電源と BIOS 設定が必要です。



Fan connectors

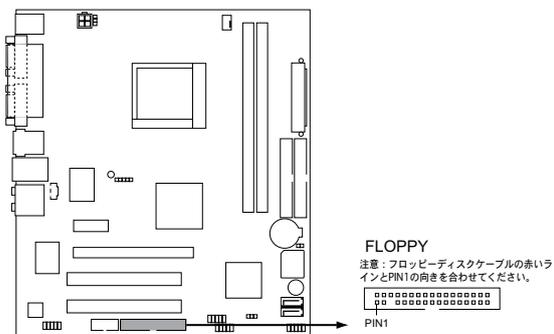
4.4 コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピン FLOPPY)

フロッピーディスクドライブ (FDD) ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。

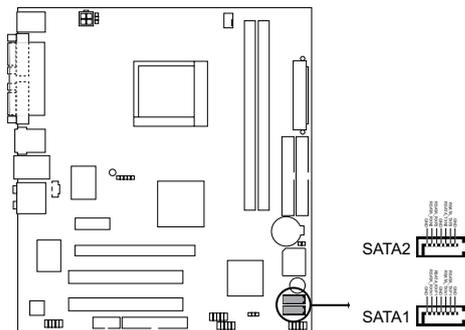


Floppy disk drive connector

2. Serial ATA コネクタ(7ピンSATA1、SATA2)

これらコネクタは Serial ATA ケーブル用で、Serial ATA ハードディスクドライブ/光学ドライブに使用します。データ転送速度は最大 150 MB/s で、標準的な Parallel ATA の 133 MB/s (Ultra DMA133) より高速です。

Serial ATA ハードディスクドライブを取り付けた場合は、オンボード VIA® VT8237R Plus コントローラで RAID 0、RAID 1、JBOD を構築することができます。



SATA connectors



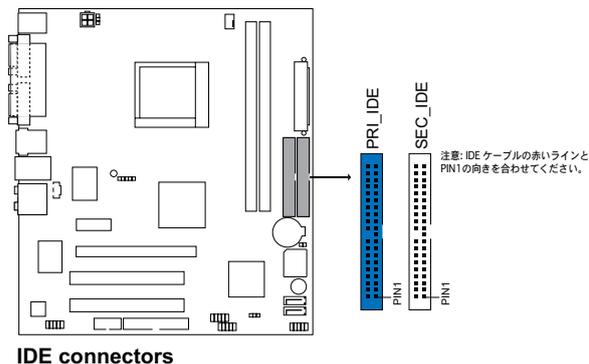
Serial ATA を使用する前に、Windows® 2000 には Service Pack 4 を、Windows® XP には Service Pack 1 を適用してください。



- RAID 0、1、JBOD の構築方法の詳細はサポート CD に収録の RAID のマニュアルをご参照ください。
- これらのコネクタの RAID 機能は、初期設定で [Disabled] になっています。詳細はページ 5-21 のセクション「**5.4.4 SouthBridge VIA VT8237A Configuration**」をご参照ください。

3 IDE コネクタ (40-1ピン PRI_EIDE)

Ultra DMA 133/100/66 ケーブル用です。各 Ultra DMA 133/100/66 ケーブルにはブルー、ブラック、グレーの3つのコネクタがあります。マザーボードの IDE コネクタにはブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。



	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス 1 台	Cable-Select/ マスター	-	ブラック
デバイス 2 台	Cable-Select	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラック/ グレー
	スレーブ	スレーブ	



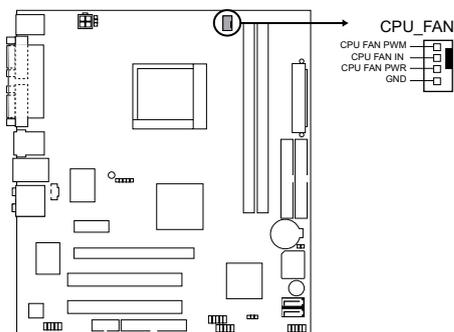
- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン 20 は取り外されています。
- Ultra DMA 133/100/66 IDE デバイスの場合は、80 ピンタイプの IDE ケーブルを使用します。



あるデバイスジャンパを「Cable-Select」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。

4. CPU ファンコネクタ(4ピンCPU_FAN)

各ファンコネクタは+12Vで、350mA~740mA(最大 8.88W) またはトータルで 1A~2.22A(最大 26.64W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



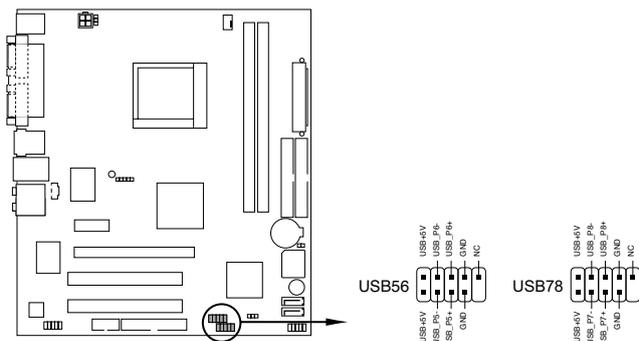
Fan connectors



ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン(吸/排気ファン)を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。

5. USB コネクタ (10-1ピン USB56、USB 78)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



USB connectors



1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



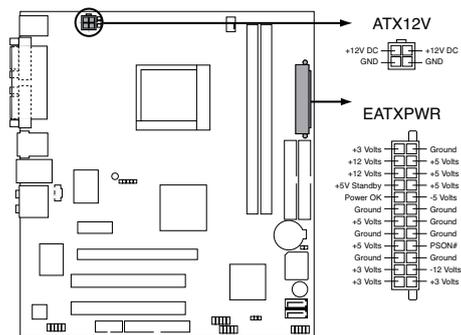
USB モジュールは別売りとなっております。

6. ATX 電源コネクタ (24ピンEATXPWR、4ピンATX12V)

ATX 電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。



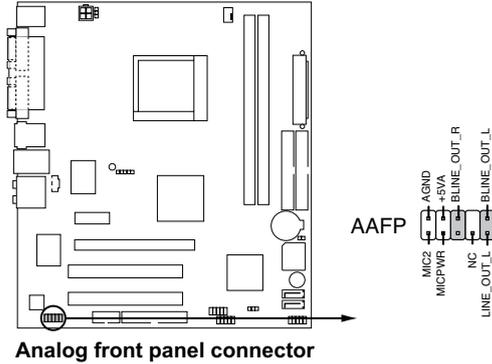
ユーザーが電源ユニットを交換された場合は ASUS の保証サービスの適用外となります。ご了承ください。



ATX power connectors

7. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1ピン AAFP)

ケースのフロントパネルオーディオI/Oモジュール用コネクタで、HDオーディオ及びAC'97オーディオをサポートしています。オーディオ I/Oモジュールケーブルの一方をこのコネクタに接続します。

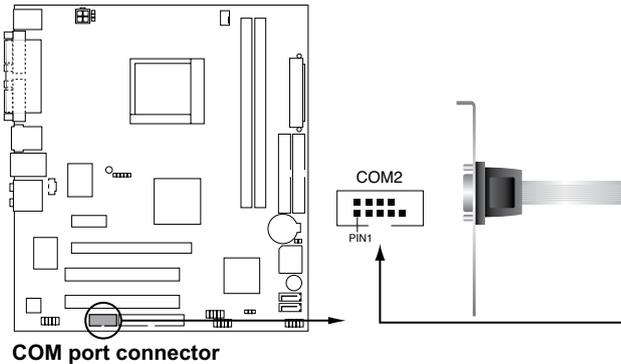


8. Serial ポートコネクタ (10-1ピン COM2)

Serial (COM) ポート用です。Serial ポートモジュールケーブルをこのコネクタに接続します。

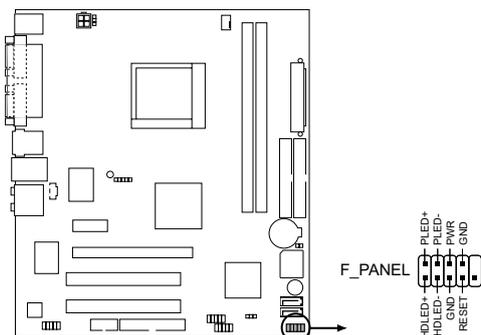


Serial ポートブラケット (COM) は別売りとなっております。



9. システムパネルコネクタ (2x5 10ピン F_PANEL)

これらのコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。

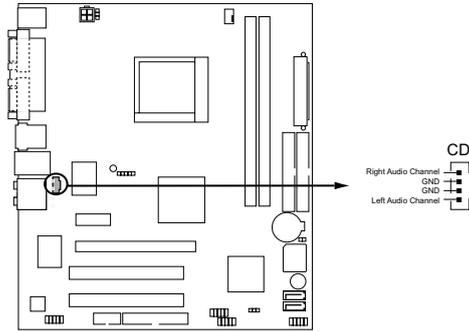


System panel connector

- **システム電源 LED**
システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源 LED はシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- **HDD Activity LED**
HDD Activity LED 用です。HDD Activity LEDケーブルを接続してください。IDE LED は、データが HDD と読み書きを行っているときに点灯または点滅します。
- **ビーブ (Beep) スピーカー**
ケース取り付けのビーブスピーカー用です。スピーカーはその鳴り方でシステムの不具合を報告し、警告を發します。
- **電源ボタン/ソフトオフボタン**
システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。また BIOS の設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを押すと、システムの電源はオフになります。
- **リセットボタン**
ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

10. 光学ドライブオーディオ入力コネクタ (4ピン CD)

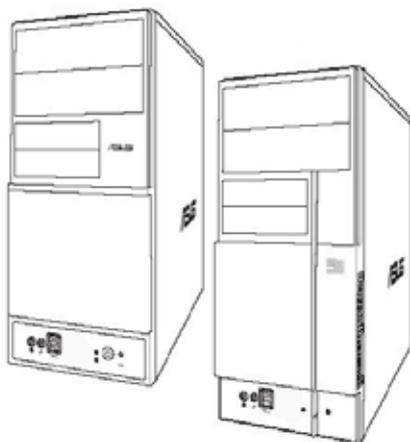
CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



Internal audio connector

Chapter 5

BIOSセットアップメニューでのシステム
設定、変更方法、BIOSパラメータの説明



BIOS セットアップ

5.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. **ASUS EZ Flash** (POST で BIOS を更新。フロッピーディスクを使用)
2. **ASUS AFUDOS** (DOS モードでブートフロッピーディスクを使用して BIOS を更新)
3. **ASUS Update** (Windows® 環境で BIOS を更新)

各ユーティリティ詳細は関連項目をご参照ください。



- BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスク/USB フラッシュディスクにコピーしてください。BIOS のコピーには ASUS Update または AFUDOS を使用します。
- 最新の BIOS は ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) からダウンロードしてください。

5.1.1 ブートフロッピーディスクを作成する

1. 次のいずれかの方法で、ブートフロッピーディスクを作成します。

DOS 環境

- a. ドライブに 1.44MB のフロッピーディスクを挿入します。
- b. DOS プロンプトで、**format A:/S** を入力し、<Enter> を押します。

Windows® XP 環境

- a. 1.44 MB のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows® のデスクトップからスタートをクリックし、マイコンピュータを選択します。
- c. 3.5 インチフロッピーディスクドライブアイコンを選択します。
- d. マウスを右クリックし、コンテキストメニューからフォーマットを選択します。3.5 インチフロッピーディスクのフォーマットウィンドウが表示されます。
- e. フォーマットオプションから、「MS-DOS の起動ディスクを作成する」を選択し、「開始」をクリックします。

Windows® 2000 環境

Windows® 2000 での起動ディスクの作成手順

- a. フォーマット済みの 1.44 MB フロッピーディスクをドライブに挿入します。
- b. Windows® 2000 のインストール CD を光学ドライブに挿入します。
- c. 「スタート」ボタンからコマンドプロンプトを選択します。
- d. オープンフィールドで、**D:\bootdisk\makeboot a:** と入力します。「D」は光学ドライブです。ご使用の環境によって異なります。
- e. <Enter> を押し、スクリーンの指示に従います。

2. オリジナルまたは最新のマザーボードのBIOSファイルをブートフロッピーディスクにコピーします。

5.1.2 ASUS EZ Flash

ASUS EZ Flash はブートフロッピーディスクや DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。このユーティリティは内蔵の BIOS チップですので、システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2>を押すことで起動することができます。

EZ Flash を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト(www.asus.co.jp)にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクまたは USB フラッシュディスクに保存し、システムを再起動します。
3. POST 中に <Alt> + <F2> を押し、EZ Flash を起動します。押すと下の画面が表示されます。

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...
```



- ドライブにフロッピーディスクが入っていない場合、「Floppy not found!」というエラーが表示されます。
- フロッピーディスクに適切な BIOS ファイルが入っていない場合にも、「Floppy not found!」というエラーが表示されます。ダウンロードした BIOS ファイルの名前は「M2VTVM.ROM」にして保存してください。

4. BIOS ファイルを保存したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。BIOS ファイルが検出されると、EZ Flash は自動的に BIOS を更新し、システムが再起動されます。



BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...  
Floppy found!  
Reading file "M2VTVM.ROM". Completed.  
Start flashing...  
Flashed successfully. Rebooting.
```


BIOSファイルを更新する

AFUDOSユーティリティを使用してBIOSファイルを更新する手順

1. ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードして、ブートフロッピーディスクに保存してください。



紙などにBIOSファイル名を書きとめてください。DOSプロンプトでBIOSファイル名を正確に入力する必要があります。

2. マザーボードサポート DVD 内に収録されたAFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) をブートフロッピーディスクにコピーします。
3. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

```
afudos /i[filename]
```

[filename] は、BIOS ファイル名です。

```
A:\>afudos /iM2VTVM.ROM
```

4. ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。
5. BIOS の更新プロセスが完了すると、DOS プロンプトに戻ります。HDDからシステムを再起動してください。

```
A:\>afudos /iM2VTVM.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19 (ASUS V2.07 (03.11.24BB)
Copyright © 2002 American Megatrends Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done

Advance Check .....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... done
Verifying flash .... done

Please restart your computer

A:\>
```



図の中の BIOS 情報は参照用です。実際の内容とは異なることがあります。ご了承ください。



BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

5.1.4 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- 最新の BIOS ファイルに BIOS を更新する
- インターネットから直接 BIOS を更新する
- BIOS のバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポート CD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポート CD をセットします。セットするとドライバメニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、「Install ASUS Update VX.XX.XX」をクリックします。詳細はページ 3-5 の「ユーティリティメニュー」をご参照ください。
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。

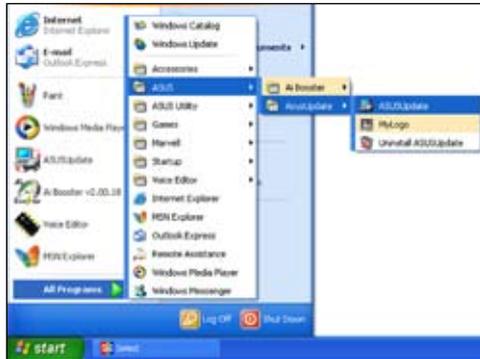


このユーティリティを使用して BIOS を更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

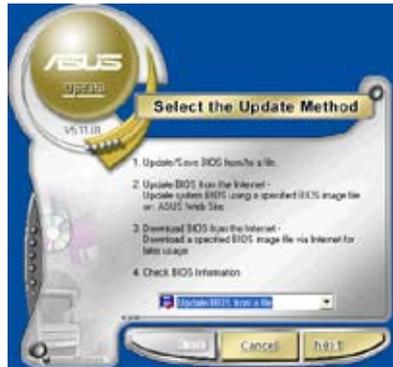
インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. 「スタートメニュー」→「プログラム」→「ASUS」→「ASUSUpdate」→「ASUSUpdate」の順にクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



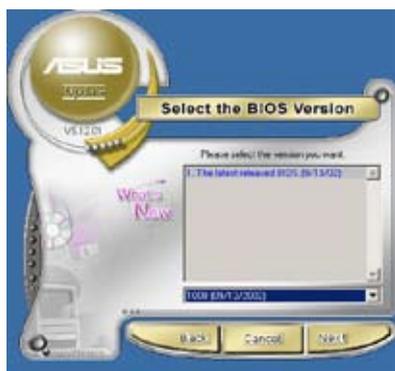
2. 更新方法を選択し、「Next」をクリックします。



- インターネットからアップデート/ダウンロードする方法を選択した場合は、最寄りのASUS FTP サイトを選択するか、「Auto Select」を選択し、「Next」をクリックします。



- FTP サイトから BIOS バージョンを選択し、「Next」をクリックします。
- 表示される指示に従って、更新プロセスを完了させます。



- ファイルから BIOS を更新する方法を選択した場合は、画面の指示に従いファイルの場所を指定します。ファイルを指定したら、「Open」を押し、画面の指示に従って更新プロセスを完了させてください。



5.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能な Low-Pin Count (LPC) チップを搭載しており、「5.1 BIOS 管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新をすることが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または“Run Setup”を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にする、または、電源管理設定を変更することができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、LPC チップのCMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードのLPCチップにはBIOS設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にキーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

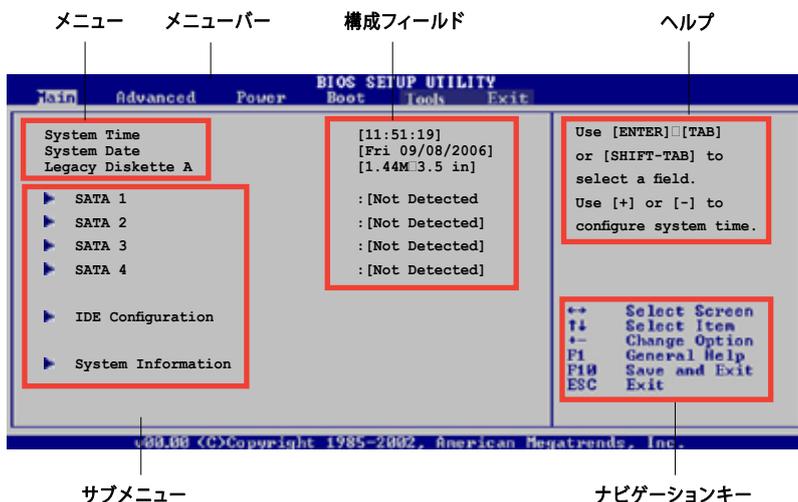
POSTの終了後にBIOS 設定プログラムを実行したい場合は、<Ctrl+Alt+Delete>を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールする、使用可能なオプションから設定を選択することができます。



- このマザーボードのBIOSの初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、初期設定値をロードしてください。初期設定値に戻すには、終了メニューの下の「Load default Setting」を選択します。詳細は「5.7 終了メニュー」をご参照ください。
- 本書に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

5.2.1 BIOSメニュー画面



5.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Exit	終了オプションと初期設定値のロード用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。

5.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。

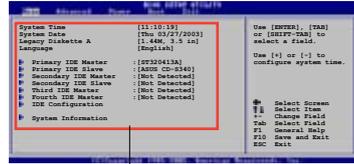


掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。

5.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。



メインのメニュー

5.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

5.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更が可能でない項目は、選択することができません。

各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は次項「5.2.7 ポップアップウィンドウ」をご参照ください。

5.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

5.2.8 スクロールバー

設定項目が画面に収まりきらない場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または <Page Up>/<Page Down> キーで、スクロールすることができます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

5.2.9 ヘルプ

メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

5.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「5.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。



5.3.1 System Time [xx:xx:xxxx]

システム時間を設定します。

5.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

5.3.3 Legacy Diskette A [1.44M、3.5 in.]

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

設定オプション: [Disabled] [360K、5.25 in.] [1.2M、5.25 in.] [720K、3.5 in.] [1.44M、3.5 in.] [2.88M、3.5 in.]

5.3.4 Primary, Secondary IDE Master/Slave

セットアップ中に BIOS は自動的に IDE デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。



BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART Monitoring の各値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに IDE デバイスが接続されていない場合は N/A と表示されます。

Type [Auto]

IDEデバイスのタイプを選択します。[Auto]に設定すると、適切な IDE デバイスタイプを自動的に選択します。光学ドライブを接続している場合は [CDROM] を選択します。デバイスが ZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス) を選択します。

設定オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの設定。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBA モードが有効になります。デバイスが LBA モードでフォーマットされていない場合は無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) [Auto]

マルチセクタ転送の設定。[Auto]に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。[Disabled] に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。

設定オプション:[Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMA モードを設定します。

設定オプション:[Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART Monitoring [Auto]

SMARTによる監視、分析、報告機能を設定します。

設定オプション:[Auto] [Disabled] [Enabled]

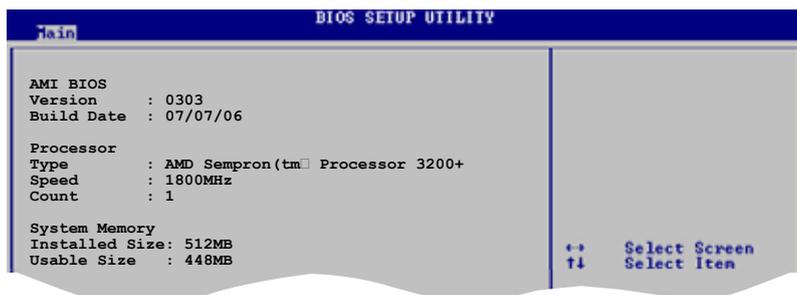
32Bit Data Transfer [Disabled]

32bit データ転送を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

5.3.5 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。



```
BIOS SETUP UTILITY
Main
AMI BIOS
Version      : 0303
Build Date   : 07/07/06

Processor
Type         : AMD Sempron(tm) Processor 3200+
Speed        : 1800MHz
Count        : 1

System Memory
Installed Size: 512MB
Usable Size   : 448MB

++ Select Screen
↑↓ Select Item
```

AMI BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

Processor

自動検出された CPU の仕様を表示します。

System Memory

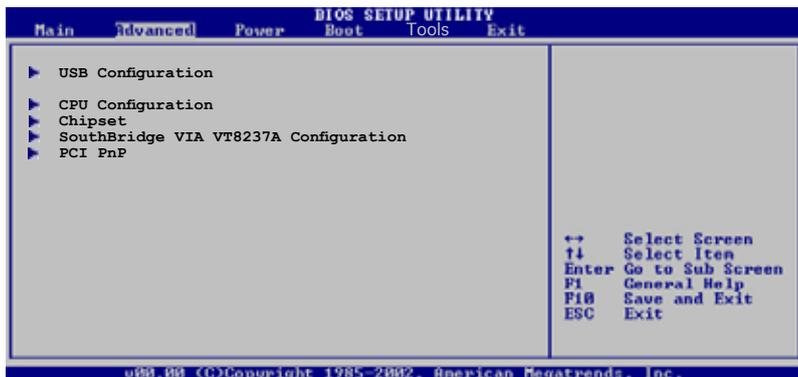
自動検出されたシステムメモリの容量を表示します。

5.4 拡張メニュー

CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。

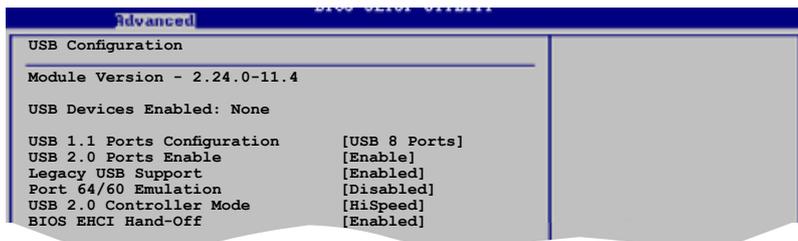


拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



5.4.1 USB 設定

USB 関連機能の変更をすることができます。項目を選択し <Enter> を押して設定オプションを表示させてください。



「**USB Devices Enabled**」の項目には自動検出した値が表示されます。USB デバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

USB 1.1 Ports Configuration [USB 8 Ports]

USB 1.1 コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [USB 2 Ports] [USB 4 Ports] [USB 6 Ports] [USB 8 Ports]

USB 2.0 Ports Enable [Enable]

USB 2.0 コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enable]

Legacy USB Support [Enabled]

レガシーUSB デバイスの設定。[Auto]に設定すると、起動時に USB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないとレガシー USB のサポートは無効になります。
設定オプション:[Disabled] [Enabled] [Auto]

Port 64/60 Emulation [Enabled]

I/O ポート 60h/64h エミュレーションサポートを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled].

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

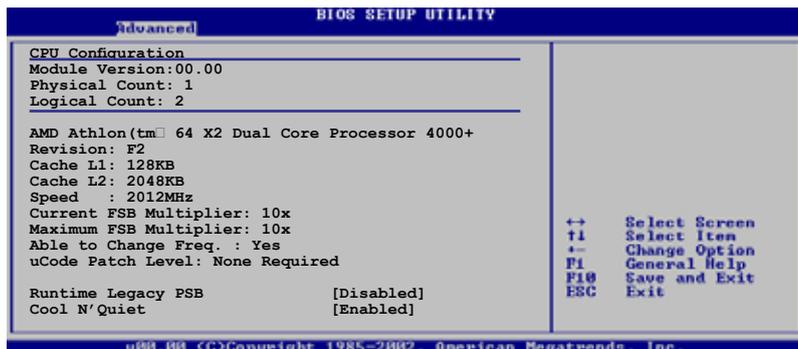
USB 2.0 コントローラのモードを設定します。HiSpeed (480 Mbps) または FullSpeed (12 Mbps) から選択します。
設定オプション:[HiSpeed] [Full Speed]

BIOS EHCI Hand-Off [Enabled]

BIOS EHCI ハンドオフ機能のサポートを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

5.4.2 CPU の設定

BIOS が自動的に検出するCPU 関連の情報です。



Runtime Legacy PSB [Disabled]

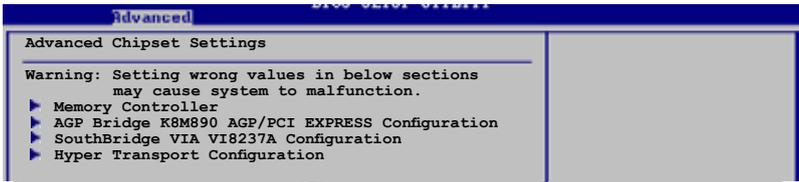
ハードウェアプリフェッチャ機能を設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Cool N'Quiet [Enabled]

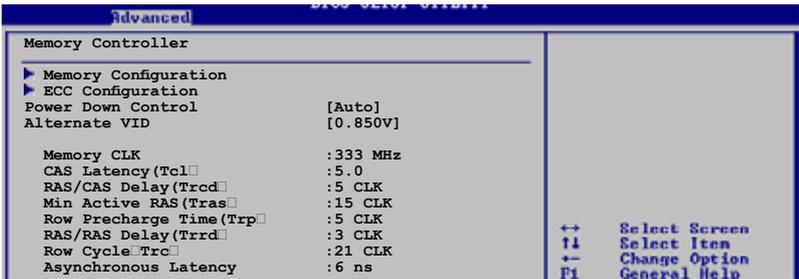
AMD Cool 'n' Quiet! 機能を設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

5.4.3 チップセット

チップセットの設定を変更します。項目を選択し、<Enter> を押すとサブメニューを表示させることができます。



NorthBridge Configuration



Memory Configuration



Memclock Mode [Auto]

メモリアクロックのモードを設定します。

設定オプション:[Auto] [Manual] [Limit]

MCT Timing Mode [Auto]

Parallel Port Mode を [ECP] に設定すると表示されます。この項目は Parallel Port ECP DMA を設定します。

設定オプション:[DMA0] [DMA1] [DMA3]

Bank Interleaving [Auto]

メモリアクセスの集中を緩和するバンクインターリーブ機能を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Enable Clock to All DIMMs [Disabled]

Clock to all DIMMs 機能を設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

MemClk Tristate C3/ATLVID [Disabled]

C3 と Alt VIDモードでの MemClk Tri-Stating 機能を設定します。

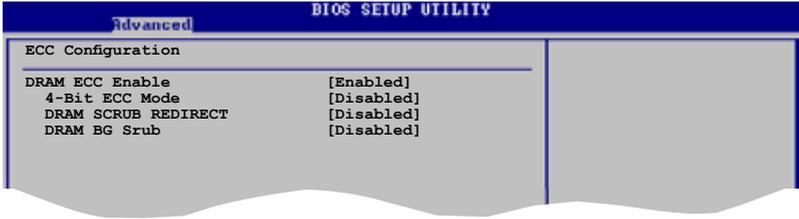
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Memory Hole Remapping [Disabled]

メモリホール周辺へのメモリのリマッピングを設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

ECC Configuration



The screenshot shows the BIOS Setup Utility interface. At the top, there is a blue header with 'Advanced' and 'BIOS SETUP UTILITY'. Below this, the 'ECC Configuration' section is visible, containing the following settings:

Setting	Value
DRAM ECC Enable	[Enabled]
4-Bit ECC Mode	[Disabled]
DRAM SCRUB REDIRECT	[Disabled]
DRAM BG Srub	[Disabled]

DRAM ECC Enable [Disabled]

DRAM ECCを設定します。有効にすると、ハードウェアにより正確なメモリのエラーが自動的に検出されます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]



次の項目は「**DRAM ECC**」の項目を [Enabled] に設定すると表示されます。

4-Bit ECC Mode [Disabled]

ECC Chip Kill 機能を設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

DRAM SCRUB REDIRECT [Disabled]

有効にすると、バックグラウンドのスクラブ機能がオンの状態でも DRAM ECC エラーが発生したときにシステムによりエラーが即座に修正されます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

DRAM BG Scrub [Disabled]

DRAM スクラブ機能のインターバルを設定します。この機能はメモリエラーを修正し書きし、正しく読み込まれるようにします。この間メモリはロックされ、パフォーマンスに若干の影響を与えることがあります。
設定オプション:[Disabled] [40ns] [80ns] [160ns] [320ns] [640ns] [1.28us] [2.56us] [5.12us] [10.2us] [20.5us] [41.0us] [81.9us] [163.8us] [327.7us] [655.4us]

Power Down Control [Auto]

メモリを不使用時に、メモリクロック信号をアサート停止することで、メモリを Power Down モードに切り替えます。
設定オプション:[Auto] [Disabled]

Alternate VID [0.850V]

電源が低い状態にある場合のオルターネート VID 電圧を指定します。
設定オプション: [1.050V] [1.025V] [1.000V] [0.975V] [0.950V] [0.925V] [0.900V] [0.875V] [0.850V] [0.825V] [0.800V]

AGP Bridge K8M890 AGP/PCI EXPRESS Configuration

Advanced		BIOS SETUP UTILITY	
OnChip VGA Frame Buffer Size	[64MB]		
Primary Graphics Adapter	[PCIE VGA]		
VLink Mode Supported	[Auto]		
AGP Mode	[AGP 8X]		
Graphics Aperture Size	[128MB]		

OnChip VGA Frame Buffer Size [64MB]

オンチップ VGA フレームバッファサイズを設定します。
設定オプション:[64MB] [128MB] [256MB]

Primary Graphics Adapter [PCIE VGA]

ビデオカードを検出する間の PCI Bus スキャンの順序を切り替えます。ビデオコントローラが複数ある場合に、Primary VGA のタイプを選択することができます。
設定オプション:[PCI] [PCIE VGA] [Integrated VGA]

VLink Mode Supported [Auto]

VLink 8X サポートを設定します。
設定オプション:[Auto] [Mode 0] [Mode 1] [Mode 2] [Mode 3] [Mode 4]

AGP Mode [8X]

オンボード VGA 用の AGP モードを設定します。
設定オプション:[AGP 8X] [AGP 4X]

Graphics Aperture Size [128MB]

オンボード VGA グラフィックデータ用にマッピングされるメモリサイズを設定します。
設定オプション:[32MB] [64MB] [128MB] [256MB]

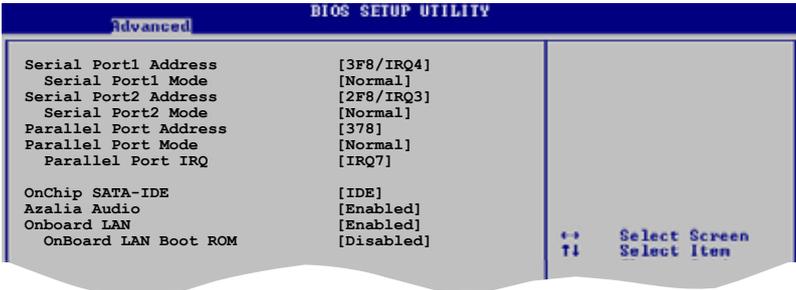
Hyper Transport AGP Configuration

Advanced		BIOS SETUP UTILITY	
Hyper Transport AGP Configuration			
(K8/NPT) to AGP Freq Auto	[Enabled]		

Hyper Transport AGP Configuration [Enabled]

CPU の性能により K8/NPT to AGP Frequency 機能を設定します。
設定オプション:[Enabled] [Disabled]

5.4.4 SouthBridge VIA VT8237A Configuration



Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを設定します。

設定オプション:[Disabled] [3F8/IRQ4] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Serial Port1 Mode [Normal]

Serial Port1 モードを設定します。

設定オプション:[Normal] [IrDA] [ASK IR]

Serial Port2 Address [2F8/IRQ3]

Serial Port1 ベースアドレスを設定します。

設定オプション:[Disabled] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Serial Port2 Mode [Normal]

Serial Port2 モードを設定します。

設定オプション:[Normal] [IrDA] [ASK IR]

Parallel Port Address [378]

Parallel ポートのベースアドレスを設定します。
設定オプション:[Disabled] [378] [278] [3BC]

Parallel Port Mode [Normal]

Parallel ポートのモードを設定します。
設定オプション:[Normal] [EPP] [ECP] [EPP+ECP]

ECP Mode DMA Channel [DMA3]

Parallel ポート ECP DMA を設定します。
設定オプション:[DMA0] [DMA1] [DMA3]

Parallel Port IRQ [IRQ7]

Parallel ポート IRQ を設定します。
設定オプション:[IRQ5] [IRQ7]

OnChip SATA-IDE [IDE]

オンチップ SATA-IDE を設定します。
設定オプション:[Disabled] [IDE] [RAID]

Azalia Audio [Enabled]

Azalia オーディオコントローラを設定します。
設定オプション:[Enabled] [Disabled]

Onboard LAN [Enabled]

オンボード LAN コントローラを設定します。
設定オプション:[Enabled] [Disabled]

Onboard LAN Boot ROM [Disabled]

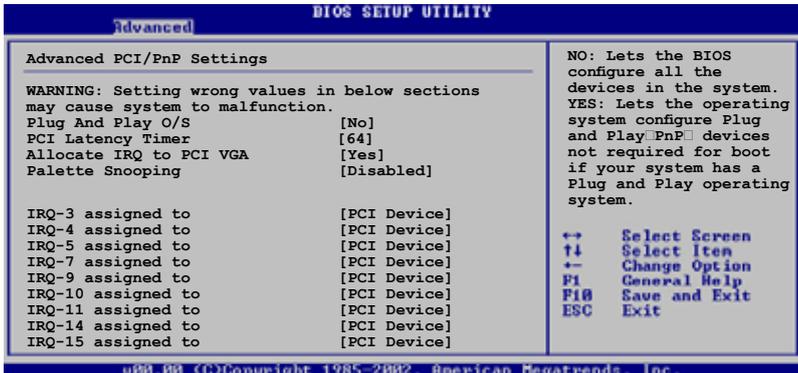
オンボード LAN Boot ROM を設定します。
設定オプション:[Enabled] [Disabled]

5.4.5 PCI PnP

PCI/PnP デバイスの設定を変更します。このメニューでは PCI/PnP デバイスまたはレガシー ISA デバイス用に、IRQ と DMA チャンネルリソースを設定することができます。また、レガシー ISA デバイス用にメモリサイズブロックを設定することができます。



誤った設定値はシステムの誤作動の原因となります。PCI PnP メニューで設定変更する場合はご注意ください。



Plug and Play O/S [No]

[No] にすると、システム内の全てのデバイスはBIOSにより構成されます。[Yes] にし、Plug and Play OSをインストールしている場合は、起動に不要な Plug and Play デバイスは全てOSにより構成されます。

設定オプション:[No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]

PCI デバイスレイテンシタイマーレジスタ用の PCI クロックの値を設定します。

設定オプション:[32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

[Yes] に設定すると、カードが IRQを要求した場合に BIOS は IRQ を PCI VGA カードに割り当てます。[No] に設定すると、要求されても BIOS は IRQ を PCI VGA カードに割り当てません。

設定オプション:[No] [Yes]

Palette Snooping [Disabled]

[Enabled] に設定すると、パレットスヌープ機能は ISAグラフィックスデバイスが正しく機能するように、このデバイスがシステムに取り付けられていることをPCIデバイスに通知します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

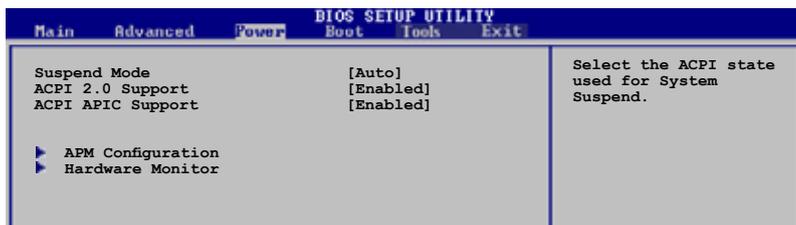
IRQ xx [Available]

[Available] に設定すると、特定の IRQ が PCI/PnP デバイスが使用できるように解放されます。[Reserved] に設定すると、IRQ はレガシー ISA デバイス用に予約されます。

設定オプション:[Available] [Reserved]

5.5 電源メニュー

ACPIとAPM機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



5.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムサスペンドに使用されるACPI (Advanced Configuration and Power Interface)の状態を設定します。

設定オプション: [S1(POS) Only] [S3 Only] [Auto]

5.5.2 ACPI 2.0 Support [Enabled]

ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) 2.0 基準に適合させるために、ACPI テーブルのリストを拡張します。

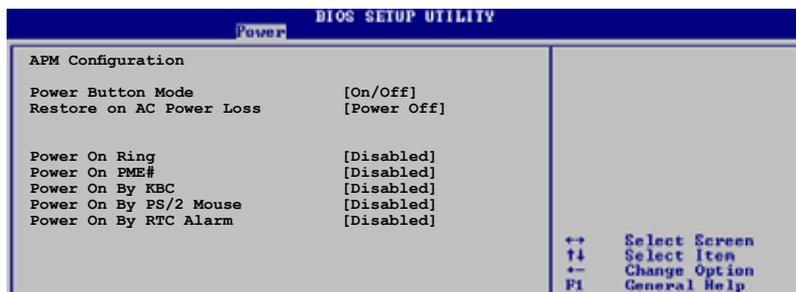
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.5.3 ACPI APIC Support [Enabled]

APIC が、ACPI をサポートするかどうかを設定します。[Enabled] に設定すると、ACPI 設定内の RSDT ポインタリストにAPIC テーブルのポインタが追加されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.5.4 APM の設定



Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンを押したときの、電源モードの動作を設定します。
設定オプション:[On/Off] [Suspend]

Restore on AC Power Loss [Power Off]

[Power Off] に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On] に設定すると、再通電時に電源をオンにします。
[Last State] に設定すると、再通電時に遮断直前の電源状態に戻ります。
設定オプション:[Power Off] [Power On] [Last State]

Power On Ring [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっているときに、外部モデムが受信した場合に、コンピュータの電源をオンにするかどうかを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行されるまで、データの送受信はできません。従って、最初の試行では接続を行えません。コンピュータがオフになっている間に外部モデムをオフにしてから再びオンにすると、初期ストリングがシステム電源をオンにします。

Power On PME# [Disabled]

PME#-ウェイクアップ機能を設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Power On By KBC [Disabled]

キーボードウェイクアップ機能を設定します。この機能を利用するには、+5VSB リード線で最低 1A 供給可能な ATX 電源が必要です。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

PS/2 マウスを使用して、システムをウェイクアップする機能を設定します。この機能を利用するには、+5VSB リード線で最低 1A 供給可能な ATX 電源が必要です。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

RTC でウェイクアップする機能を設定します。[Enabled] に設定すると、各項目 (RTC Alarm Date, RTC Alarm Hour, RTC Alarm Minute, RTC Alarm Second) が設定値とともに表示されます。この機能を利用するには、+5VSB リード線で最低 1A 供給可能な ATX 電源が必要です。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

5.5.5 ハードウェアモニタ

BIOS SETUP UTILITY	
Hardware Monitor	CPU Temperature
CPU Temperature	[48°C/118°F]
MB Temperature	[35°C/95°F]
CPU Fan Speed	[3260RPM]
Chassis Fan Speed	[N/A]
VCORE Voltage	[1.504V]
3.3V Voltage	[3.360V]
5V Voltage	[5.160V]
12V Voltage	[11.328V]
Smart Q-Fan Function	[Disabled]
CPU temperature beep function	[Enabled]
CPU temperature high limit	[95 degree]

←→ Select Screen
↑ Select Item
↓ Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit

CPU Temperature [xxx°C/xxx°F]

MB Temperature [xxx°C/xxx°F]

オンボードハードウェアモニタは マザーボードと CPU 温度を自動的に検出して表示します。表示させない場合は、[Ignored] を選択します。

CPU Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

Chassis Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

CPUファンスピードを自動的に検出して回転数/分 (RPM) の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには [N/A] と表示されます。

VCORE Voltage、+3.3V Voltage、+5V Voltage、+12V Voltage

オンボード電圧レギュレータを通じ、自動的に電圧出力を検出して表示します。

Smart Q-Fan function [Disabled]

Smart Q-Fan 機能を設定します。

[Enabled] に設定すると、Fan Auto Mode Start Speed、Fan Auto Mode Start Speed Temp、Fan Auto Mode Full Speed Temp の各項目が表示されます。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Fan Auto Mode Start Speed [40%]

ファン自動モードの開始速度を設定します。

設定オプション:[20%] [40%] [60%] [80%]

Fan Auto Mode Start Speed Temp [25°C]

ファン自動モードの開始速度温度を設定します。

設定オプション:[25°C] [26°C] - [50°C]

Fan Auto Mode Full Speed Temp [55°C]

ファン自動モードのフルスピードの温度を設定します。
設定オプション:[55°C] [56°C] - [75°C]

CPU temperature beep function [Enabled]

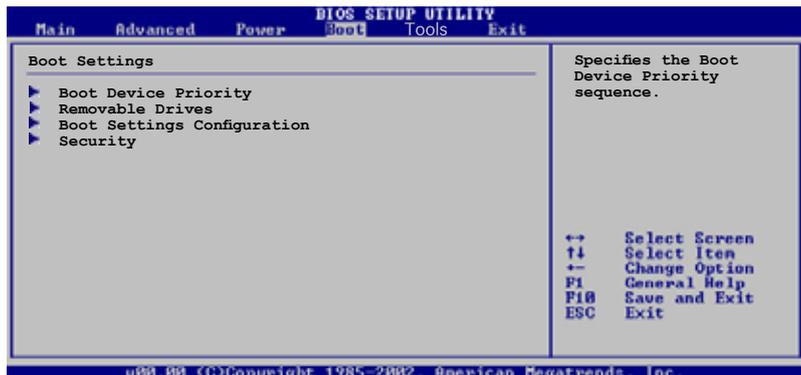
CPU 温度ビープ機能を設定します。
設定オプション:[Enabled] [Disabled]

CPU temperature high limit [95 degree]

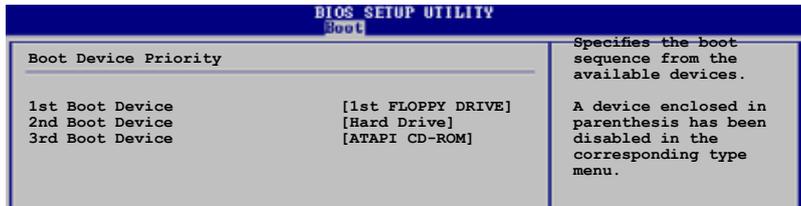
CPU 温度の上限を設定します。
設定オプション:[Disabled] [95 Degree] [85 Degree] [75 Degree] [65 Degree]

5.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。



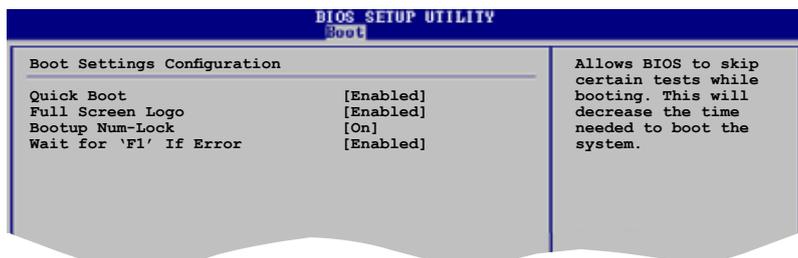
5.6.1 ブートデバイスの優先順位



1st ~ xxth Boot Device [1st Floppy Drive]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。
設定オプション:[xxxxx Drive] [Disabled]

5.6.2 起動設定



Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴの表示/非表示を切り替えます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo2™ 機能をご利用になる場合は「Full Screen Logo」の項目を [Enabled] に設定してください。

Bootup Num-Lock [On]

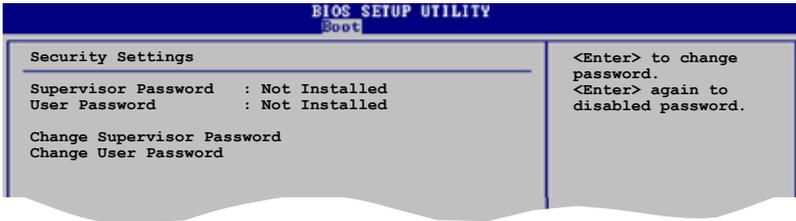
電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。
設定オプション:[Off] [On]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

[Enabled] に設定するとシステムはエラー発生時に<F 1 > キーを押すまで待機します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

5.6.3 セキュリティ

システムセキュリティ設定の変更。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。



Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「**Supervisor Password**」は、初期設定値は「**Not Installed**」になっています。パスワードを設定すると、「**Installed**」に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「**Change Supervisor Password**」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「**password box**」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「**Password Installed**」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードを変更する場合は、設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードの消去は、「**Change Supervisor Password**」を選択し、<Enter> を押します。消去すると「**Password Uninstalled**」というメッセージが表示されます。



管理者パスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック(RTC) RAM を消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAM を消去する方法については、ページ 4-3 の「**4.3 ジャンパ**」のページをご参照ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。



User Access Level [Full Access]

BIOSメニューへのアクセス制限の選択。

設定オプション:[No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

[No Access]、BIOSメニューへのユーザーのアクセスを拒否します。

[View Only]、アクセスは許可しますが設定の変更はできません。

[Limited]、日時など、限られた設定のみを変更することができます。

[Full Access]、すべての項目を表示、変更することができます。

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「**User Password**」は初期設定値では「**Not Installed**」になっています。パスワードを設定すると、「**Installed**」に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順

1. 「**Change User Password**」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「**password box**」で、6文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「**Password Installed**」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

ユーザーパスワードをクリアします。

Password Check [Setup]

この項目を [Setup] に設定すると、BIOS は BIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[Always] に設定すると、BIOS は BIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。
設定オプション: [Setup] [Always]

5.7 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。「Exit」メニューからいずれかの項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOS の設定が終了したら、「Exit」メニューからこのオプションを選択し、設定を CMOS RAM に保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでも BIOS の設定内容を保存します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「YES」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに <ESC> で BIOS メニューを終了しようとする時、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は <Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOSメニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

BIOSメニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復旧します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「YES」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

Load Setup Defaults

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「YES」を選択して初期設定値をロードします。「Exit & Save Changes」を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。